

# 健康被害 従来のタバコに匹敵?! 続報

## 加熱式タバコ・電子タバコ 新型タバコ

利用者「ヨック

「そんなの知らなかった!」

タイプ別 有害物質比較				
※製品によってバラつきあり				
◎: 多い	○: 結構ある	▲: 少なくない	△: やっぱある	
	▲	○	◎	ニコチン
◎	○	◎	▲	グリセオール
○	◎	▲	△	プロブレングリコール
④	③	②	①	
電子タバコ(国内販売)	加熱式タバコ(低温タイプ)	加熱式タバコ(高温タイプ)	紙巻きタバコ	製品
ニコチンなし/肺炎を起こす危険性	有機溶剤の発生は最大/肺がしばむ危険性あり	発がん性あり/有機溶剤のリスクもプラス	5300種類の化学物質/70種類の発がん性物質	



「新型」でも健康被害・受動喫煙

「新型タバコは、健康被害も少ない」と誤解されがちですが、人工呼吸器が必要になった重症肺炎の症例が発生しています。

「新型」にもタバコ葉が使われていますから紙巻きタバコと同様にアルデヒド類などの発がん性物質も発生します。たとえ量が少なくても、長期間の使用で肺がんが発生する恐れがあります。また、その一部はエアロゾル(霧・ミスト)として吐き出され、室内で使用した



低温タイプ加熱式タバコのリキッド

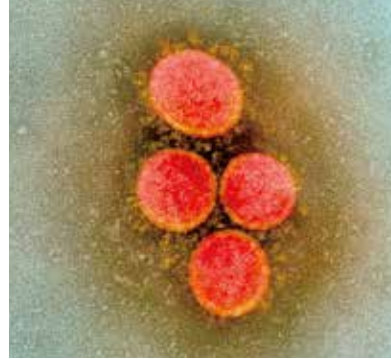
「未知のリスク」  
グリセロール&  
プロブレングリコール

高温タイプの加熱式タバコをつくる過程や、低温タイプの加熱式タバコ・電子タバコのリキッドに使われるネバネバの有機溶剤です。食品添加物や歯磨きペーストなど経口投与では無害ですが、加熱して肺にエアロゾルとして吸入すると肺がしばむという指摘があります。

呼吸器感染症の感染・重症化リスク大

すべてのタバコ製品は喉・肺の免疫システムを傷つけます。インフルエンザや新型コロナウイルスなどのような呼吸器感染症にかかりやすく、重症化しやすくなる。こんな研究結果が世界各地で報告されています。また、タバコを吸うたびに口に手を持っていくのも、感染のもとに。自分の身を守るためにも、この機会に禁煙を始めてみませんか?

新型コロナウイルス  
提供: 米国立アレルギー・感染症研究所



監修  
産業医科大学  
産業生態科学研究所  
教授 大和 浩



Dr. 大和の  
イチオシ  
禁煙外来  
が狙い目

医師の指導と禁煙治療薬、12週間で5回の外来で成功率が高く、ラクに禁煙できる「禁煙外来」がおすすめ! 健康保険適用(加熱式タバコも対象)で、1~2カ月分のタバコ代(14,000~20,000円)で禁煙できるのもポイント。なお、2020年4月から、パソコンやスマホなどでの「オンライン診療」の対象になりました。\*初診と最終回は対面での診察が必要。

## けんぽお知らせ板